

第1回岩手・宮城内陸地震に係る荒砥沢地すべり対策と大規模地すべりにより出現した地形・景観の活用に関する検討会 議事概要

1 日時 平成21年8月4日（火）10:00～11:45

2 場所 宮城県栗原市栗駒総合支所大会議室

3 出席委員

井良沢委員、金澤委員、佐藤委員、松浦委員、宮地委員（座長）、石井委員

4 議事

(1) 座長選出について

(2) 荒砥沢地すべりの現況と地すべり対策の基本的考え方

5 主な検討結果・報告及び委員の発言

(1) 座長選出について

宮城委員が座長に選出された。

(2) 荒砥沢地すべりの現況と地すべり対策の基本的考え方

- ・ 今回の検討会、地すべりの考え方が変わる転換点となる検討会である。地すべりが自然環境を大きく作りかえ、あらたな自然環境を作り出すことを目の前にしている。防災面を第一に捉えるのはもちろん重要な事であり、双方をみながら、これからの対策を検討していく必要がある。
- ・ 地すべり地全体としては、この状態で動くことはまずないだろうが、斜面が開放されたところ（滑落崖の上部等（拡大亀裂箇所））が部分的に不安定となっている。不安定な部分ひとつひとつが大きいということ、その不安定な部分が壊れた時に、移動体にどのような影響を与えるか考える必要がある。
- ・ 防災面を第一とした上で、危険なところは安定化させる必要があるが、その活用など全体的な検討をしていきたい。
- ・ 荒砥沢地すべりは、崩壊地内に土砂がとどまっている特徴があり、巨大な土砂とどうつきあうかが課題。浸食の問題、地すべり地内の拡大崩壊、冠頭部の安定性がダムに対してどのような影響を及ぼすかが大きなテーマとなる。冠頭部の安定性については、崩壊するシナリオ（地震、降雨、

融雪等) から、本体地すべりへの影響を予測する必要がある。

- ・ 今まで、この荒砥沢がどれだけ安定したのかわからなかったが、比較的安定しているという話を聞いて安心したところ。こうした情報も地域に知らせてもらいたい。
- ・ 周辺住民もおり、観光客も来る、ダムには受益者も多いとなれば、安全が第一。その中で、地形などが世界的に珍しいとなれば、どこの場所を残すのが良いのか、折り合いをつけていく必要がある。また、次の時代に（震災からの復興を）しっかり伝えていく使命がある。
- ・ 地域住民の安全やダムの機能確保の面からは、拡大亀裂と表面浸食の扱いを、国有林の管理という面からは、活用の仕方に応じて、中に残された森林の位置づけや道路の残骸の処理などを、データやシミュレーション等を元に議論していきたい。

以上